安全作業手順書【円形水路補修工(スリットガード)】

作成日・改正日	2025/4/1 （前回改正：2024/4/1）	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具・車両	ハンマー、電動ドリル、エアーブロア、 清掃道具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ 保護メガネ、切創作業用手袋、軍手、皮手袋

見積もり基準をした危険性の評価

重大性(B) / 可能性(A)	○ 軽微（不休と休業３日以内）	△ 重大（休業４日以上）	× 極めて重大（死亡・障害が残る）
○ ほとんど起こらない（５年に１回程度）	○○（極めて小さい）	○△（かなり小さい）	○×（中程度）
△ たまに起こる（１年に１回程度）	△○（かなり小さい）	△△（中程度）	△×（かなり大きい）
× かなり起こる（６ヶ月に１回程度）	×○（中程度）	×△（かなり大きい）	××（極めて重大）

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例

危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし（後子を見る）
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント（～なので～になる）	ﾘｽｸの見積り (A)	(B)	ﾘｽｸ	安全対策（危険度２以下へ）（私達はどうする）	ﾘｽｸの再見積り (A)	(B)	ﾘｽｸ
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割（運転手、助手）を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する 使用機械、工具等の点検を行う しらすんだーの動作確認を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 作業前に 朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする	手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう / / 作業中に機械が故障し、思わぬケガをする 電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる	△ ○ / / △ △	× × / / × ×	4 3 / / 4 4	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾃｯｶｰを確認する / / 作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○ ○ / / ○ ○	○ △ / / ○ ○	1 2 / / 1 1
	車両確認	セーフティーバイブル	25.車両回送手順書に則る								
	作業車両準備										
	作業車両点検										
	出発準備										
本作業	出発										
	規制内進入										
	車両移動停止										
	逸走防止										
	使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
	削孔位置確認	削孔ドリルの刃にマーキングする	①ドリルの電源が入っていないことを確認して ②所定の深さを確認して	ドリルの電源を入れたままマーキングを行い、誤ってスイッチを入れ被災する 深さを確認せず削孔を行い、品質にばらつきが生じる	△ △	△ △	3 3	必ず電源が入っていないことを確認してから深さマーキングを行う ドリルに所定深さをマーキングし、削孔を行う	○ ○	○ ○	1 1
	鋼板箇所確認	鋼板設置箇所及び押さえ金具位置の確認・調整を行う	周囲の状況に注意して	施行箇所のみを注視し、周囲状況を把握できず規制範囲外に出てしまい、車両との接触を起こす	○	×	3	周囲に十分注意し、必要に応じて保安員を配置する	○	○	1
	削孔作業	アンカー打込み箇所を削孔する エアブロア、ブラシ等で削孔内を清掃する	①ドリル刃の深さのマーキングを確認して ②手袋を着用して 埃の飛散に注意して	深さを確認せず削孔を行い、品質にばらつきが生じる 素手で作業し、被災する 削孔時、発生した塵が身体に入り被災する 周囲を確認せず清掃を行い、車両に埃等が飛散する	△ △ △ △	△ × × ×	3 4 4 4	ドリルに所定深さをマーキングし、削孔を行う 必ず保護具を着用して作業する 保護マスク、ﾒｶﾞﾈを着用して削孔を行う 規制箇所の際などでは、飛散防止対策を行う	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	1 1 1 1
	アンカー打込み	アンカー打込み専用棒、ハンマー等で アンカーを削孔箇所に打込む	①アンカーが構造物面に対して垂直になるよう注意して ②保護具を着用して	垂直方向から打込みを行わず、アンカーの屈曲が生じる 打込みハンマーの勢いがあまり、手元を打撲する	△ △	△ △	3 3	垂直方向を確認しながら慎重に打込む 大方打込んだ後は、手を離して少しずつ打込む	○ ○	○ ○	1 1
	鋼板取付け	鋼板、押さえ金具を設置する 垂直方向に回転させ押さえ金具を固定する 打込んだアンカーにボルト、ナットを設置する ボルト、ナットの締め付けを確認する	押さえ金具を呑口に対して水平となるように注意して 押さえ金具が動かないように確認しながら 締め付け具合を確認して 緩みの無いように十分に締付けて	鋼板の水平位置を確認せず、ずれが生じる 押さえ金具の締め付けが不十分となり鋼板が飛散する 押さえ金具の締め付けが不十分となり鋼板が飛散する 締付け不足で鋼板にガタが生じる	△ ○ ○ △	△ × × △	3 3 3 3	鋼板全体に注視し、水平を確認した後、金具を取り付ける 最後に必ず締め付けの確認を再度行う 最後に必ず締め付けの確認を再度行う 前後の均等性を保ち、確実に締付ける	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	1 1 1 1
	仕上げ	発生材や道具を片付ける 清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する	車線側、他の作業員等十分周囲に注意して 車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	/ 掃き掃除やブロワー使用の際、走行車に気づかず清掃物が飛散し、接触する /	/ △ /	/ △ /	/ 3 /	/ 職長は必ず場内全体を監視し、警笛等を用いて合図をしながら清掃する /	/ ○ /	/ ○ /	/ 1 /
本作業	現場離脱帰着	25.車両回送手順書に則る									
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライドバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1